

令和5年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 10	公益目的事業 17
主査名	苦瀬博仁 東京海洋大学名誉教授	
研究テーマ	非日常の活動におけるロジスティクス研究の役割と範囲	
研究の目的： <p>ロジスティクスでは、企業活動における商流と物流を対象としているが、交通論や経済学をはじめとして、都市・交通計画、経営学やマーケティング、医療や災害など、さまざまな学問分野と密接な関係にある。本研究プロジェクトの目的は、学際分野であるロジスティクス研究の特徴を、周辺研究分野との比較の中で明らかにすることである。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>本研究プロジェクトでは、今年度5回の研究会を実施した（第1回：2023年7月24日、第2回：2023年10月19日、第3回：2023年12月14日、第4回：2024年2月21日、第5回：2024年3月18日、いずれも会議室・Zoom併用）。</p> <p>第1回研究会では、主査（苦瀬）が、「令和5年度研究プロジェクト応募用紙」のほか、ロジスティクスとパラダイムシフトに関する討議資料、ロジスティクスの学際研究に関する全体像に関する討議資料を用いて、本研究プロジェクトの目的、問題意識、取組内容などについて説明し、研究メンバー間で意見交換をおこなった。</p> <p>第2回から第4回の研究会では、研究メンバーによる研究報告とそれにもとづく議論をおこなった（第2回研究会のテーマ：海外の宅配事情と物流サービス、企業会計とロジスティクスの関係、第3回研究会のテーマ：ロジスティクスの変化と物流共同化の課題、第4回研究会のテーマ：災害時の支援物資に必要な情報、物流の標準化）。</p> <p>第5回研究会では、外部講師を招き、特に航空物流の観点からロジスティクスについて議論をおこなった。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>本研究の成果として、報告書で予定している内容は以下のとおりである。</p> <p>第一に、学際分野としてのロジスティクスの重要性を論じるとともに、サステナブルに向けたロジスティクスの変化について述べる（報告書第1章、苦瀬）。</p> <p>第二に、物流におけるサービスレベルの課題に関して、物流における顧客サービスの意義と課題、物流におけるサービスレベルとサービス品質、諸外国における宅配サービスの調査を取り上げて論じる（報告書第2章、苦瀬・河内）。</p> <p>第三に、共同輸配送の課題に関して、物流共同化の範囲、共同輸送の課題、共同配送の課題を取り上げて論じる（報告書第3章、苦瀬）。</p> <p>第四に、会計からみたロジスティクスの課題に関して、会計（財務、税務、管理会計）からみた物流コスト、企業会計における物流コストと物流効率化、物流コスト調査によるコスト変化を取り上げて論じる（報告書第4章、味水・織田）。</p> <p>第五に、災害時の緊急支援物資物流の課題に関して、災害時の緊急支援物資の物流、地域防災計画と緊急支援物資物流、半島・離島における緊急支援物資物流を取り上げて論じる（報告書第5章、</p>		

令和5年度研究プロジェクト研究概要報告

渡部・内田・鈴木)。

そのほか、外部講師による講演から得た知見についてまとめる（報告書付録）。

今後の課題：

今年度までの3年間において、令和3年度は交通、マーケティング、令和4年度は都市計画、地域計画と労働問題、令和5年度は災害、会計に着目し、それぞれの観点から、ロジスティクスとの相互関係についての解明を進めてきた。今後は、これまでの研究内容について、経済（流通・会計）、社会（交通・都市）、安全安心（生活・健康・災害支援）といった領域ごとに再整理し、新領域に広がるロジスティクスに関する研究成果のとりまとめに取り組みたいと考えている。